

登壇者プロフィール

斎藤 至（さいとう・いたる）

科学技術振興機構（JST）アジア・太平洋総合研究センター フェロー。京都大学大学院法学研究科修士課程修了（国際公共政策専攻）。修了後、国内複数の大学出版部でアジア地域研究を中心とした書籍・雑誌等の企画編集を手掛ける。2008～13年には（一社）大学出版部協会国際部会にも在籍し、アジア諸国との連携事業を担う。2021年5月より現職、東南アジアを中心とした科学技術・学術政策動向を調査。学術英語学会理事を兼任し、日本からの英文学術情報発信における知見普及にも努める。

斎藤 幸平（さいとう・こうへい）

大阪市立大学大学院経済学研究科准教授。ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程修了。博士（哲学）。経済思想、社会思想。*Karl Marx's Ecosocialism: Capital, Nature, and the Unfinished Critique of Political Economy*（邦訳『大洪水の前に』・堀之内出版）によって権威ある「ドイッチャー記念賞」を日本人初、歴代最年少で受賞。日本国内では、晩期マルクスをめぐる先駆的な研究によって「日本学術振興会賞」受賞。40万部を超えるベストセラー『人新世の「資本論」』（集英社新書）で「新書大賞2021」を受賞。

影浦 亮平（かげうら・りょうへい）

千葉商科大学基盤教育機構専任講師。ストラスブール大学博士課程修了。博士（哲学）。哲学・倫理学。近年の業績に、「ベンヤミンのボードレー論とジョゼフ・ド・メーストル：ボードレー論の歴史哲学」、日本独文学会研究叢書『ベンヤミンの経験への問い：1930年代を焦点に』（2021年）、"The influence of Joseph de Maistre on the monarchical idea of Kuga Katsunan", *History of European Ideas* (2021)、"フランスにおけるユダヤ哲学：ジェラルド・ベンスーサンを読む"『ナマール』第25号（神戸・ユダヤ文化研究会、2021年）、共著に *Paradigms, Models, Scenarios and Practices for Strong Sustainability* (Editions Oeconomia, 2020)等。

大西 楠テア（おおにし・なみ・てあ）

本学法学部准教授。東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了。修士（法学）。ドイツ法。共著に『ドイツ連邦主義の崩壊と再建：ヴァイマル共和国から戦後ドイツへ』（岩波書店、2015年）、『グローバル化と公法・私法関係の再編』（弘文堂、2015年）、『ヨーロッパ・デモクラシー：危機と転換』（岩波書店、2018年）、『政策実現過程のグローバル化』（弘文堂、2019年）、『国際法の現在：変転する現代世界で法の可能性を問い直す』（日本評論社、2020年）。

森原 康仁（もりはら・やすひと）

本学経済学部教授。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。京都大学博士（経済学）。国際経済論、産業論、国際関係論、競争戦略論。著書に『アメリカIT産業のサービス化』（日本経済評論社、2017年）、共編著に『新版 図説経済の論点』（旬報社、2019年）、共著に『資本主義を改革する経済政策』（かもがわ出版、2021年）、共訳にデヴィッド・ハーヴェイ『経済的理性の狂気：グローバル経済の行方を〈資本論〉で読み解く』（作品社、2019年）等。

恒木 健太郎（つねき・けんたろう）

本学経済学部准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程研究指導認定退学。経済学史・思想史。博士（人間・環境学）。著書に『「思想」としての大塚史学：戦後啓蒙と日本現代史』（新泉社、2013年）、編著に『歴史学の縁取り方：フレームワークの史学史』（東京大学出版会、2020年）、共著に『最強のマルクス経済学講義』（ナカニシヤ出版、2021年）、『経済社会の歴史：生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017年）等。